



©いらすとや

経鼻胃カテーテルってどれくらいで入れ替える??



2010年頃からの胃瘻バッシングのために胃瘻の代わりとして経鼻胃管での経腸栄養(EN)管理やCVポートが使われるようになってきている昨今、全国的に長期間での経鼻胃管ENの症例が増加している印象にあります。

長期に経鼻胃管ENを行う際、「**経鼻胃カテーテル**」はどのような目安で入れ替えるのか、はたまた**入れ替えることなく留置してもいいか**、この問題について検討されている興味深い論文があるため、今回は取り上げていきたいと思えます。

「経鼻胃カテーテルの留置期間に関する調査結果報告」

大阪大学 国際医工情報センター 栄養デバイス未来医工学共同研究部門
 井上 善文先生

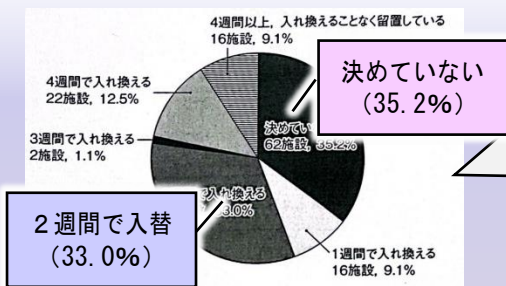


図1 長期間 経鼻胃カテーテルを留置する場合の入替の頻度

経鼻胃カテーテルの入れ替え頻度に関し、日本における概ねの傾向を把握するため176施設からアンケート調査を行った結果、**図1**のような結果が得られ、**留置期間を「決めていない」と回答した施設が最も多く、長期留置に伴う合併症の報告は様々あるものの、全体的に留置期間の管理は関心が薄く、あまり重視していないことがうかがわれました。**

ここで、こちらの論文では管理方法のひとつの目安として経鼻胃カテーテルの添付文書に記載されている留置可能期間について注目しており、それぞれカテーテルの「**材質**」と「**可塑剤** (素材に柔軟性や弾性を与えるための添加物の総称)」により管理方法を以下のように見直すことを勧められているため、今後のカテーテル管理の参考としてはいかがでしょうか。

- ◆PVC製カテーテル(短期用):留置期間 **7~10日**
- ◆シリコン製・ポリウレタン製カテーテル(長期用):留置期間 **4週間**

※ なお、当院でも経鼻胃カテーテルの交換は**4週間**と定められていますが、カテーテルが汚染している場合は適宜交換しましょう

【参考文献】(1) Medical Nutritionist of PEN Leaders Vol.5 No.2 189-193 「経鼻胃カテーテルの留置期間に関する調査結果報告」(2021) 井上善文著

濃厚流動食に

新たな仲間 が加わります!

ジュースタイプは…
 さらに少量で飲みやすいサイズに!

ゼリータイプは…
 ・味のバリエーションが3→6種類に!
 ・より高タンパク質に!
 ・より口の中でまとまりやすく!

終

▼当院での『エネフリード』に関する注意点

2023年11月より当院では PPN 製剤の内のひとつとして『エネフリード』を採用することとなりました。今回は『エネフリード』の**特徴**や当院での**注意点**についてご説明いたします。



エネフリードとは??

日本で初めて、糖・電解質・アミノ酸・9種類の水溶性ビタミンに加え、脂肪をダブルバッグに一剤化した PPN 用キット製剤。使用時は上室と下室の隔壁を開通することで、簡便かつ無菌的に液を混合することができる。

開通忘れ防止◎

上室が黄色澄明で下室が乳濁液であるため開通が視覚的にわかりやすい

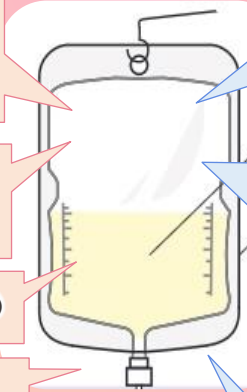
必須脂肪酸欠乏・脂肪肝予防◎

急激な血糖上昇予防◎

血栓性静脈炎予防◎

NPC/N 比が上昇

脂肪を含まない PPN 製剤と比べ、より効率的にアミノ酸がたんぱく質合成に使われる可能性が UP



遮光カバー使用必須

エネフリードに含まれるビタミン B2は光に弱く分解されやすい

感染注意!長時間かけての投与は**非推奨**
脂肪乳剤は一般的に細菌が繁殖しやすいため、菌汚染防止の観点からなるべく速やかに投与を終了させる
当院では1P(550ml)3時間での投与を推奨

その他使用に際しての注意点

- ・他の薬剤を混注しない
- ・輸液ライン側管から同時に他の薬剤を投与しない
- ・側注口のない輸液ラインを選択することが望ましい(液溜まりリスク回避)

以上から、**食思低下や嚥下困難でカロリー輸液のみを必要とする場合や、精神状態悪化により経口摂取が困難な場合**になど、エネフリードを使用することで**投与カロリーの増量や、別途、脂肪乳剤を処方する必要はなく煩雑な管理が軽減される**可能性があるため、状況に応じて上手に活用しましょう!

【参考文献】「エネフリード輸液(パンフレット)」(株)大塚製薬工場発行

NSTリンクナース活動を振り返って…

2023年度 NST リンクナース勉強会 実施内容

- NST 介入基準・リンクナースの役割
- CONUT 評価
- 経腸栄養の基礎、栄養投与量の基礎、高度な栄養障害に陥った患者の栄養管理
- **胃瘻の基礎知識**
- トロミ付けの仕方・注意点
- 嚥下、食事姿勢、食事介助について
- 簡易懸濁法
- **学会発表内容報告** (EN 管理から経口移行した症例)

今年度も当院 NST リンクナースは、ミーティングや勉強会を通して**栄養の知識や専門的な技術**を学び、病院全体のレベルアップに貢献されました。

また、今年は**胃瘻について詳しく学ぶ機会**も多く、年々、高齢化と共に増加する経腸栄養の患者やその家族に対し適切な治療をご提供出来るよう、これからも NST メンバー・NST リンクナース共々 知識を深めて参ります。

今回は代表して**第5病棟 田村 MM**に1年間の活動を振り返っていただき、NST(リンクナース)活動を通して感じたことなどをコメントにいただきました!



NST 看護師
田村 知之 MM

栄養 大事やで!

今まで自分の勉強不足もあり NST の知識が浅く、NST に対しあまり関心がありませんでしたが、この1年間 NST メンバーの一員となり、様々な勉強をさせていただくことで、少しではありますが NST について知る事ができました。
この1年間で勉強したことを今後の仕事に役立てたいと思います。

1年間おつかれさまでした!